

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第4学年

【単元名】 手づくりのしなものとどけよう（18時間扱い）

【育成する資質・能力】〔思考力，判断力，表現力等〕

全体計画における資質・能力	単元計画における資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や体験の中で興味をもったり疑問に思ったりしたことから、課題を見つける。</li> <li>解決に必要な情報収集の仕方を考えるなど、見通しをもって計画を立てる。</li> <li>わかったことや自分の考えを相手や目的に応じて表現方法を工夫し、整理したりまとめたり伝えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>竹や木を使ったものづくりを通して、課題に気付いている。</li> <li>お客さんが必要だと思ったり喜んでくれたりする品物を作るための方法や手順を考えて見通しをもって活動する。</li> <li>宣伝のためのチラシ作りや放送などの内容を考えて表現する。</li> </ul>

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：「手作り商店3の1」では、自分たちが作った「箸置き」「写真立て」「ミニ椅子」などの品物をお店で売り、多くの人に喜んでもらえることができた。

働かせる見方・考え方：物作りや販売活動を通して、自己の生き方を問い続けること。

段階	学習活動（時間）	留意点
対象と出会い課題をもち	1 3年生での活動を振り返る（2）	<p><b>対象と出会い，問いを見いだす場面</b></p> <p>☞ 3年生で自分たちが作ってきた物の写真を見ながら、この活動での問いを見いだせるようにする。</p> <p>問い：喜んでもらえるにはどうしたらいいだろうか。</p>
	2 お客さんに喜んでもらえるにはどんな物を作ったらよいか話し合う（2）	<p><b>自ら課題を設定し，追究の見通しをもつ場面</b></p> <p>☞ どんな物が喜んでもらえるかクラスで話し合いながら、何を作るか見通しをもつようにする。</p>
繰り返し対象へ働きかけ	3 自分たちが考えた，家庭で役に立つ物を制作する（10）	<p><b>グループで情報収集し，整理・分析する場面</b></p> <p>☞ 自分が作りたい物の材料や作り方などを自分で調べるとともに、家庭で役立つ物として使いやすいうように相手意識をもって制作するようにする。</p> <p>☞ よりよい品物を作るための工夫を、友だちと相談したり、必要に応じて地域の方に聞いたりする場を設ける。</p>
	4 作り方について地域の方に聞く（2）	
自分の考えをまとめる	5 お店を開店し，活動を振り返る（2）	<p><b>まとめ・表現をし，自己の学びを自覚する場面</b></p> <p>☞ 品物の販売でお客さんの様子から、活動のよさを自覚する場を設ける。</p>

次単元へのつながり：お店での販売から、今度は交流しているデイサービスでもお店を開き、おじいさん・おばあさんに喜んでもらえるように品物を作っていく。